



# SALVATIONIST

# とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二1章14節)

二〇二五年三月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



陽春号

広報版

2025

March-April

No.2885

2025年 救世軍標語

# 「信仰の遺産の上に築く」

「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。」

テモテへの手紙二 1章14節



克己週間 3月 1日～15日  
 レントに入る 3月 5日(水)  
 受難日 4月18日(金)  
 イースター 4月20日(日)

と きの こ え SALVATIONIST

陽春号 広報版  
2025 March-April  
NO.2885

## もくじ

- **メッセージ**  
ゲツセマネの園から空の墓へ  
大将 リンドン・バッキンガム ……3
- **〔連載〕聖潔の流れに立つ 第37回**  
ジョン・ウェスレーの聖潔  
一心うちに燃えて—  
少佐 丸畑 幸夫 ……5
- **集会報告**  
司令官及び軍国女性部会長による  
関東東北連隊キャンペーン(2) ……6  
初野戦 ……7
- **各地のニュース !!**  
東京東海道連隊 ニューイヤーラリー ……7
- **証言**  
横浜小隊 諸井めぐみ副会計 ……8
- **各地のニュース !!**  
エンジェルツリープロジェクト
- **証言**  
東ヨーロッパ軍国 シュヴァブ少佐夫妻 ……9
- **YP(青少年部)・ファミリーニュース**  
成人者お祝い、杉並小隊 ……10
- **各地のニュース !!**  
音楽部 ……10  
札幌三園、横浜小隊、仙台小隊 ……11
- **社会鍋による支援**  
八幡小隊 ……12
- **〈連載・第12回〉各地の小隊から**  
杉並小隊 ……12
- **〈連載・第31回〉**  
神の呼びかけ～神の民となるために～  
(12) 戦いへの呼びかけ ……13
- **救世軍見解表明**  
社会道德に対する救世軍の立場  
第15回「ポルノグラフィ」(2)  
第16回「安息日の遵守」(1) ……14
- **召天記事、救世軍公報** ……15
- **各地のニュース !!**  
岡山小隊、高松分隊 ……16



@SArmyJP



SArmy\_JP



救世軍  
The Salvation Army

きりとり

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。  
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

表紙の写真：上野恩賜公園  
での初野戦

イースター・メッセージ

# ゲツセマネの園から空の墓へ

大将 リンドン・バツキングラム



「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」(マタイ28:6)

ゲツセマネの園から始まり、空の墓へと至るイースターは、人類史における最も深遠な瞬間です。それは、イエス・キリストの死と復活によって、神の贖いの計画が完全に成就したことを示しています。受難節の黙想を通して、わたしたちは死を克服した神の愛を目の当たりにします。そして、人類の想像を超えた最大の贈り物であるイエスの復活を通して、永遠の救いが与えられる瞬間を目撃するので

切りの影から始まります。ゲツセマネの園で、イエスは「わたしは死ぬばかりに悲しい」(マルコ14:34)と言

たのは わたしたちの背きのためであり 彼が打ち砕かれたのは わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって わたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」(イザヤ53:5)のです。一つ一つの鞭打ち、一本一本の茨の

リント二5:21) イエスが「成し遂げられた」(ヨハネ19:30)と宣言したとき、すべての預言が成就され、神の正義は充足され、神と人との隔たりは埋められました。

この言葉は、人類史の流れを変え、今なお人々の生を変えています。復活は、イエスが何者であるか、そして、イエスの使命が何であるかについて、イエス自身が語った言葉をすべて裏付けています。復活は、イエスが死に打ち勝つ力をもった神の子であることを確認するのです。ローマの信徒への手紙一章四節が宣言しているように、「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。」

その命は、わたしたちの命です。「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。」(コリント一15:20) 復活は、死が力を失い、墓が破られたことの証しです。「わたしが生きていくことになる」(ヨハネ14:19)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

その後の一連の出来事、すなわち、裁判、残酷な鞭打ち、ゴルゴタへの道のりは、人間の罪深さと神の愛の高さを対比しています。イザヤが何世紀も前に預言したように、「彼が刺し貫かれ

カルバリで、わたしたちは罪の恐ろしさと、驚くべき神の恵みの両方を目にします。十字架は、神の愛の犠牲の究極のしるしであり、罪のない神の子が、全人類の罪の重荷を担ったことを示しています。

しかし、十字架で物語は終わりません。もしキリストの死が最後であったら、わたしたちの信仰は無駄だったでしょう。パウロが書くように、「キリストが復活しなかつたのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。」(コリント一15:14)

復活はすべてを変えました。日曜の朝早く、マグダラのマリアと他の女性たちが墓に赴いた時、彼女たちは人類史における最大の奇跡を目撃しました。墓の石は除かれ、死は打ち破られたのです。天使の宣言は、時代を超えて響き渡ります。

復活の意味は、深遠であると同時に、個人的でもあります。キリストが生きているので、わたしたちも生きているのです。イエスの勝利は、わたしたちの勝利です。イエ

だれもが知るこの聖句は、神の愛が受難週に示した犠牲の重みを理解する時、新たな意味を帯びます。

「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。」(コ

リント二5:21) イエスが「成し遂げられた」(ヨハネ19:30)と宣言したとき、すべての預言が成就され、神の正義は充足され、神と人との隔たりは埋められました。

この言葉は、人類史の流れを変え、今なお人々の生を変えています。復活は、イエスが何者であるか、そして、イエスの使命が何であるかについて、イエス自身が語った言葉をすべて裏付けています。復活は、イエスが死に打ち勝つ力をもった神の子であることを確認するのです。ローマの信徒への手紙一章四節が宣言しているように、「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。」

その命は、わたしたちの命です。「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。」(コリント一15:20) 復活は、死が力を失い、墓が破られたことの証しです。「わたしが生きていくことになる」(ヨハネ14:19)

復活は、死が力を失い、墓が破られたことの証しです。「わたしが生きていくことになる」(ヨハネ14:19)

イースターへの道は、裏

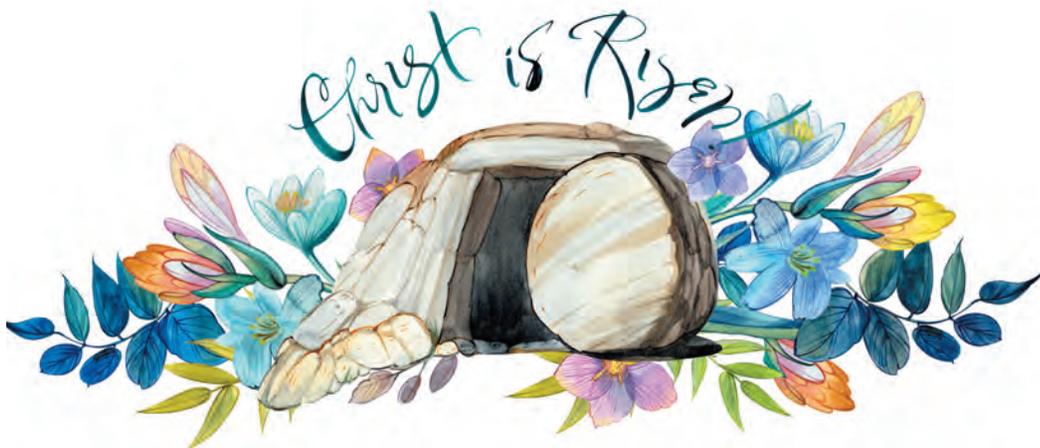
切りの影から始まります。ゲツセマネの園で、イエスは「わたしは死ぬばかりに悲しい」(マルコ14:34)と言

たのは わたしたちの背きのためであり 彼が打ち砕かれたのは わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって わたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」(イザヤ53:5)のです。一つ一つの鞭打ち、一本一本の茨の

リント二5:21) イエスが「成し遂げられた」(ヨハネ19:30)と宣言したとき、すべての預言が成就され、神の正義は充足され、神と人との隔たりは埋められました。

この言葉は、人類史の流れを変え、今なお人々の生を変えています。復活は、イエスが何者であるか、そして、イエスの使命が何であるかについて、イエス自身が語った言葉をすべて裏付けています。復活は、イエスが死に打ち勝つ力をもった神の子であることを確認するのです。ローマの信徒への手紙一章四節が宣言しているように、「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。」

その命は、わたしたちの命です。「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。」(コリント一15:20) 復活は、死が力を失い、墓が破られたことの証しです。「わたしが生きていくことになる」(ヨハネ14:19)



19)と約束された生ける救い主に、わたしたちは仕えているのです。

イースターの朝は、新しい創造をもたらしました。イエスを死者の中から復活させた力は、今日も信じる者の人生を変えます。パウロが言うように、

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリント

二5・17) 復活は、単なる過去の出来事の追憶ではありません。信じる者すべてに希望、目的、新しい人生を提供する現実の力として、いま働いているのです。

イースターの勝利は、個人的な救いを超え、宇宙的な意義をもちます。キリストの復活は、神が万物を更新するという、全被造物の回復の始まりなのです。空の墓は、罪、死、サタンが打ち負かされ、敵が敗北したことを宣言します。わたしたちはこの時代において、まだなお悪と戦っています。しかし、戦いの勝利は決定しました。パウロは、このように勝利を宣言して

います。

「わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。」(コリント一15・57)

復活はまた、信じる者に奉仕の力を与えます。キリストを死者の中から復活させた神の霊が、信じる者の中に宿り、勝利に満ちた生活を送らせ、実りある奉仕を可能にさせます。パウロが祈ったように、「わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ」られました。(エフェソ1:19-20)

生けるキリストは、希望を切実に必要とする世界において、この良い知らせを分かち合うことを、わたしたちに命じます。墓にいた女性たちは、最初の福音宣教の使命を与えられました。「急いで行って弟子たちにご報告なさい。『あなたの方の死者の中から復活された。』」(マタイ28:7) この使命は今日、信じるす

べての者に与えられます。わたしたちは、イエスの復活の証人であり、イースターまで伝えるよう召されているのです。

このイースターに、死に打ち勝ち、永遠の救いをわたしたちに与えてくださった復活の主イエスを喜びましょう。日々の生活の中で、イエスの復活の力を受け取りましょう。イエスの勝利によって、わたしたちの敗北は勝利に変えられたと認めましょう。受け入れるのです。そして、いにしへのクリスチャンたちが空の墓を祝う時に交わした挨拶を、わたしたちも唱えましょう。「キリストは復活された！ほんとうに復活された！」

イースターの美は、過去の追憶だけではなく、今も人生を変える力を持ち続けていることにあります。イエスが生きているから、わたしたちは明日に希望をもちます。だれもイエスの愛からわたしたちを引き離すことはできません。パウロが宣言したように、「これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくだ

さる方によって輝かしい勝利を収めています。」(ローマ8:37)

今年のイースターが、復活の救い主への新たな喜び、主の犠牲への深い感謝、主に奉仕する新たな決意によって、わたしたちの心を満たしますように。墓は空です。死は打ち破られました。キリストは勝利の王として、御座におられます。これがイースターの栄光です。過去の出来事だけでなく、復活の主を信じる者すべてに希望、目的、永遠の命を与える、現在の現実なのです。

「永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてくださり、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるようになります。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。」(ヘブライ13:20-21)

### 指揮 リンдон・バッキンガム大将及び ブロンウィン・バッキンガム中将

## 全国大会

2025年 11月19日～25日

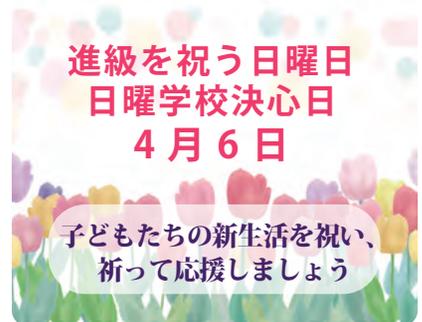
テーマ「新しい地平線へ」

(イザヤ書 43章 19節)

\*主な日程

- 11月19日(水) 大将夫妻来日
- 11月21日(金) 午前10時 全国士官会①  
午後2時 全国士官会②  
会場 山室軍平記念ホール
- 11月22日(土) 午後2時 チャリティコンサート  
会場 中央区日本橋公会堂
- 11月23日(日・祝)  
午前10時 大会聖別会  
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後12時30分 大会昼食会  
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後3時 賛美集会(仮称)  
ゲスト・長沢崇史牧師、メッセージ・大将  
会場 山室軍平記念ホール  
午後5時 ユースとの夕食会  
会場 山室軍平記念ホール
- 11月25日(火) 離日

今から覚えてお祈りくださり、ご参加ください！



## 連載 聖潔の流れに立つ 第三十七回

### ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前)「そして神の聖座の近くに立っているでしょうから、私のような小さな者には、彼を一目見ることさえできないであります」と。

短くとも、美しく燃えたホイットフィールドの生涯は、ウエスレーの瞳には、神のしもべと映じていた。ウエスレーはホイットフィールドの葬儀を頼まれた時、神からの求めとして引き受けたのであった。

ウエスレーとホイットフィールドの友情を乖離させなかつたのは、二人の間の神学的な小さな危険を警告し合う程度の配慮をしていて、普遍的キリスト教信仰の骨子としては合意していたからである。二人ともキリスト教のもつ多様性を大切にしていたのである。ホイットフィールドは組織家ではなかったが、説教は超一流で霊的高揚をアメリカにもたらした。

#### エピローグ 『キリスト者の完全』要約

メソジストは、文明の一連の形式の系列の中で一文の条を形成していて、ここにウエスレーにとって極致と言われる「キリスト者の完全」に至っている。これは聖書から引き出されたものであり、初期教父の求めたキリスト教の本源でもあった。

ウエスレーが初代教会の「聖潔の条」を継承しているとしても、それをもってこの道のエピローグである

とは見なし得ない。

『キリスト者の完全』と呼ばれているウエスレーのこの著述は一七二五年から一七六五年までに公表されたものの全貌である。

ウエスレーの「聖潔の教理」は、彼の神学の中心的な講述でもある。それは回心前から天に召される日まで、信じ教えたものの詳細な体験録であり、論理でもある。これはメソジスト存続の源泉である。

彼の第二の回心前は「完全」を自分の力により律法的に追い求めたが、回心後はこの完全を「キリスト者の完全」と称し、これが獲得されるのは、この地上においてであり、単なる観念ではなく、福音への信頼、すなわち恩寵の賜物なのである、と結論するようになった。

このように、ウエスレーにとって回心前と回心後とは「完全」という意味が違うものになっている。第二の回心後においては、自分の行為による完全は、福音の光に照らされると弱いと知る。そして、力尽き果て、泣きながら父なる神の絶対的恩寵にすがるキリスト者の完全が主張されている。「キリスト者の完全」も「義認」も賜物として神からいただくものである。

今日の社会は、人文主義的キリスト教に高い評価を与えているが、そこにある種の危険が含まれていることを見落としてはならない。

救いや聖潔に関して「キリストの御業のみ」と言う代わりに、「キリストの功徳に値するような善良な人間になることが大切である」と言って、強調点を移行することによって次第に極端になり、人間的要素がルネサンスのヒューマニズムの概念と同じようになり、人間自身が神に代わりおこなうという、徐々に別の文化要素が生み出されたのである。ミケランジェロも晩年にこれを強く感じ、自分が神から遠く離れていることを神に詫言っている。ミケランジェロは言う。

「芸術こそわが君主とあがめたが、いかに過ちだつたかを今こそ思い知る。現世での肉体の死を覚悟できなくても、審判による魂の死が恐ろしく、もはや絵も

彫刻もこの心を癒してはくれぬ。魂はただ天上の愛へと向かう」と。しかしながら、宗教改革者たちは、ミケランジェロが彫った「ピエタ」を天与の最高芸術として敬意を表している。

ミケランジェロに傾倒していたロダンが彫った「地獄の門」は、上部に「考える人」があり、その表情は地獄で苦しむ人々の姿を見下ろしていて、この世と神の国の相克を描いた作品だとされている。

しかし、人文主義的キリスト教は、歴史的に深い意味をもつてはいるものの、宗教を教養として求める態度は、救いの根拠を浅薄にするものとして警戒しなければならぬ、とウエスレーは語っている。彼は新プラトン派の哲学の中に、キリスト教と共通なもののみではなく、またそれと本質的に対立するものを見た。

ルターにしてもウエスレーにしても、偏屈な人が「すべての芸術や音楽などが福音によって滅びる」等と考えていることを批判し、むしろ芸術や音楽は神に仕えているからとして、大いに推奨している。

#### A. 聖霊による確証

「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる」(ローマ8・16口語訳)とある。聖霊は父なる神とキリストの両者から出て、私たちと神とを結びつけてくれる帯なのである。

ウエスレーは自分の醜さを感じ、神の豊かな甘美さが大好きになり、神もまた、欠けた器であるウエスレーを好んだのである。

聖霊の啓示がなければ人は信仰をもつことはできない。福音を信じる人は聖霊の絆が私たちと神の子を結んでいることを知っている。

「キリスト者の完全」は、神より特別な召命(啓示)を受け、密室において聖霊の御声を拝受することによって認識できる。これは信仰によって与えられる恩寵の第二の業である。陽の射すところに花は咲くのである。

(続)

# 集会 報告

## 司令官及び軍国女性部会長による 関東東北連隊 キャンペーン(2)

2024年9月29日(日)、10月20日(日)、27日(日)

司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐(通訳は山谷真少佐)による関東東北連隊のキャンペーンの後半の報告です。

9月29日(日)長野分隊で、聖別会が宮下充貴分隊長の司会でおこなわれました。軍国女性部会長が勧話を語り、司令官は、「神の祝福、広く、<sup>あまね</sup>遍く」と題して詩編78・1～8よりメッセージをしました。集会後、戦友の案内で長野名物の蕎麦をいただき、<sup>あひさん</sup>愛餐の時をもちました。(会衆7人)

10月20日(日)新潟小隊では、聖別会は小隊士官中川八重子少佐の司会でおこなわれ、石崎裕子兵士が証言をしました。司令官は、「神を賛美せよ、神を賛美せよ」と題し、詩編150編1～6節からメッセージを語りました。午後は、昼食食後、出席者一人ひとりが自己紹介をし、軍国女性部会長がショートメッセージをしました。戦友皆で「人生の海のあらしに」を合唱し、また最後に有志によるバンド演奏がなされ、恵みの一日を過ごしました。(会衆21人)

10月27日(日)前橋小隊で、小隊士官田口哲也少佐の司会で聖別会がおこなわれました。会衆は、司令官夫妻を軍旗の小旗を振って歓迎しました。司令官は、挨拶の後、新下士官任命、永年勤続章授与、下士官の引退感謝の時を導きました。佐々木信雄副会計、小金澤規子SS教師、小金澤誠助兵士(元青少年部曹長)後藤弘吉兵士(名誉曹長)、後藤弘子兵士(元家庭団書記)、江利川千代子兵士(元家庭団訪問軍曹)に、それぞれの証書を司令官より授与されました。軍国女性部会長の勧話の後、司令官は詩編78編1～8節より、「失われた世代?」と題してメッセージを語りました。集会後、愛餐会では堀安子SS教師が司会を務め、昼食をとりながら、語らいの時をもちました。(会衆24人)



長野分隊に出席の皆さんと



新潟小隊の皆さんと



「人生の海のあらしに」を合唱する新潟の皆さん。右側端には中川邦男少佐の姿も見えます



司令官夫妻と共に、恵み豊かな一日をすごしました



小旗を振って、ゲストを歓迎



新たに任命された佐々木信雄副会計



前橋小隊の皆さんと



勧話をするウェンディ・モーリス大佐と通訳の山谷真少佐



下士官を引退される方々と(左から江利川千代子兵士、後藤弘子兵士、後藤弘吉名誉曹長)



司令官から感謝状を授与された後藤弘子兵士

# 集会報告

## 初野戦

1月5日(日) 午後2時30分 上野恩賜公園 カエルの噴水前

新年最初の日曜日の午後、穏やかに晴れた上野恩賜公園で開催された。定刻、社会福祉部長石川一由紀少佐の司会で開会し、ジャパン・スタッフ・バンド (JSB) の伴奏で「おどろくばかりの」を共に歌い賛美した。東京東海道連隊長中島美和大尉が開会祈禱をし、書記長官西村保大佐補が挨拶。「新年の願いが皆さんにあるだろう。社会には様々な課題があるが、聖書に『主を仰ぎ見て力を得よ』とある。能登半島地震から1年が経ち、復興への努力が続けられている。困難の中でも人々が立ち上がる姿を見る。救世軍もその一助となれるよう励みたい。神様の光の中、今年一年が祝福されるように。」続いて、2025年のテーマソングをJSBの伴奏で歌った。社会福祉部長が社会鍋の感謝を述べ、困窮者支援、能登半島地震被災地での活動、輪島塗産業支援などのために用いられること、12月の東京地区の社会鍋募金額は5,027,471

円であったことを報告した。

軍国女性部書記西村和江大佐補が聖書を朗読し、ヘブライ13:5、6より司令官スティーブ

ン・モーリス大佐がメッセージをした。「多くの方々からの救世軍へのサポートに感謝したい。神は私たちに必要なすべてのものを与えてくださる。聖書は、神はあなたを見捨てないと約束している。東京のような大都会で孤独を覚えている人がどれほど多いか。聖書は神からの大いなるプレゼント。どうかそれを受け取り、聖書を開いて神を求めていただきたい。『わたしは決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない』という神の約束を信じてほしい。神はあなたをお造りになり、あなたを愛しておられる。神と出会ってほしい」と勧めた。足を止めて耳を傾ける多くの人の姿があった。最後に軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が、神の恵みへの感謝と新しい年の祝福を祈り、閉会した。

その後もJSBが数曲を演奏し、社会鍋への協力を募る時がもたれた。献<sup>ささ</sup>げてくださる方々の姿もあり、感謝のうちに終了した。



## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

## 東京東海道連隊

### ●ニューイヤーラリー

1月12日(日)、午後2時30分から山室軍平記念ホールでおこなわれ、各小隊から戦友たちが会場に集いました。定刻、横浜小隊士官鈴木智博大尉と連隊本部付朝澤まりこ大尉の司会で開会。「救いのうたごえ」を会衆皆で歌って主を賛美し、朝澤まりこ大尉が開会の祈りを献<sup>ささ</sup>げました。続いて、2024年に新たにジュニアソルジャー、同友者、兵士となった方々が紹介され、一同大きな喜びをもって歓迎しました。また、新成人のお祝いを連隊青少年部書記朝澤義人大尉が導き、7人の新成人者を紹介し、お一人おひとりを覚えて祝福の祈りを献<sup>ささ</sup>げました。

次に、清瀬小隊士官補佐齋藤丈夫大尉のリードでゲーム「信仰の遺産の上に築こう」。連隊内の小隊を3つのグループに分け、代表者が前に出て、グループ対抗でおこないました。ボール紙のボードをどこまで積み上げられるかを競い、応援しながら会場は盛り上が



りました。ワーシップバンドの伴奏で「主イエスの愛で」を歌い、諸井めぐみ副会計(横浜)が証言<sup>あかし</sup>をしました。(8ページ下に掲載)

2025年のテーマソングを熊田栄一曹長(横浜)が導き、この曲のできた背景にふれつつ、自身の職場での経験を通して、「困難の中にある人々の思いを想像することに救世軍は長けていてと自負している。今年、この歌を歌うたびに、他者の気持ち<sup>おもひ</sup>を慮ることに心を向けていきたい」と勧めました。

テモテニ1:3~14を鈴木智博大尉が朗読し、連隊長中島美和大尉がメッセージ。「救世軍のこれまでの尊い信仰の遺産を、わたしたちがゆだねられていることは疑い



テーマソングを導く熊田曹長

(8ページに続く)

司会の鈴木大尉と朝澤大尉

(7ページより)

がない。築き続けることの荷の重さを感じることもあるが、御言葉に目を向けると、テモテもこの時、様々な霊的戦いに直面していたことがわかる。パウロはテモテに、自分の力ではなく、神により頼む信仰こそが原動力であると思ひ起こすよう勧め、力と愛と思慮分別の霊を燃え立たせるよう励ましている。神の働きのために必要なものはすでに与えられている。救世軍は神のアイデアで始まったムーブメントであり、神が始められたものに神が働いてくださらないはずがない。

近年、日本の救世軍ではこれまでの働きを手放さなければならない現実に直面しているが、救世軍の根幹がキリストの福音であり、それを宣べ伝えることなのは変わらない。パウロは、自分にゆだねられているものを、神が『かの日まで守ることがおできになると確信して』いた。どのような状況の中でも守り続けてくださる神に信頼しよう。キリスト・イエス

によって与えられる信仰と愛をもって、わたしたちにゆだねられている福音を守り、御言葉の真理によって証言を続ける者でありたい。」

祈りの時をもち、最後に再びワーシップバンドの伴奏で「その日全世界が」を会衆一同で賛美しました。連隊女性部書記鈴木真理子大尉が祈り、恵みの集会を閉じました。(会衆88人)



連隊長中島美和大尉



ワーシップバンド



私の両親は横浜小隊の下士官で、私は二番目の子どもとして生まれました。血液型不適合妊娠というものだったらしく、生まれた時、ぜんぶ交換輸血をして命をいただきました。そのころ、祖母がちょうど召天し、母は寂しさの中にあつたようですが、私を一生懸命、いつも温かい、イエス様のまなざしをもって育ててくれました。父はそのころ結核の疑いがあり、ブース病院に入院したのですが、病院礼拝で賛美の奉仕に加わったりして、お恵みを受けたことを今でも証してくれます。そんな両親のもとに生まれました。肉体的に弱さを覚えることが多く、すぐ風邪をひいたり熱を出したり、寝こんでいました。家庭や小隊で祈られ、励まされ、赦され、御言葉を与えられながら神様の愛の中に生かされてきたことを、

### ニューイヤークリーでの証言

横浜小隊 副会計 諸井めぐみ

本当に感謝いたします。そして、本当に辛いなど思った時に、イエス様のことを話せる兄弟や小隊の方々、うめきと共に祈り、賛美する教会に所属して、今、こうして神様の家族である方々と一年の始まりを迎えられることを本当に感謝いたします。

子どもの頃、初めてもらった聖書で、最初に目に留まった聖句は、「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」という箇所でした。小学生の幼い心でも、ここに真理があるんだと思えました。

になり、その中で、「人は外見を見るが、神はその人の心を見る」という聖句が、とても印象に残りました。

就職をする時、体も弱いし、どうしたらいいだろう、としばらくいろいろ検討したりお祈りしたりしていましたが、大学の先生の紹介で寿町にあるメンタルクリニックに就職しました。働き始めてから、そこは近くにある教会の方たちが長い間学びと祈りを共にして立ち上がった場所であると知り、そこでは、人間関係でもいろいろな神様の導きを感じ、他の職員の方たちもクリスチャンという環境で、本当に恵まれた二十一年間を過ごしました。様々な重荷をもつ方の話を伺う機会でもありました。この間に、主人と出会って結婚をしました。

ここ数年、コロナ禍では母の闘病や病院への付き添い、実家の建て替えなどもあり、忙しく過ごしました。けれどその時に、母と、信仰や聖書の話ができて、母がどんな思いで病氣と向き合っているのか、そして神様にゆだねつつ、置かれた場所で神様の臨在のもとに過ごしている落ち着きを見て、信仰をもっているというのには本当にすごいことなんだなと思われています。

最近、「神の国と神の義を求めなさい」ということを考

えさせられています。「神の国は飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」という御言葉があります。神を求め、神を第一にし、そして隣り人を愛する、これが本当にすべてなんだと思つて過ごすようになり、毎日聖書をじっくり読む機会を与えられ、聖書のすばらしさを感じています。世界を造ってくださった神様と、人間の姿、神様の憐れみと、イエス様、この世界のすべてがここに入っているんだと教えられ、こんなすばらしい世界の中に生かされているんだと目を開かれる思いです。こんな神様の愛のあふれる世界においていただいていたのか、とびつくりしながら、小さい時はわからなかったけれど、本当に聖書つてすごい、と思つている毎日です。

人生での目標は、以前は結婚して家庭をもつて子どもを産んで、などを考えていましたが、最近、神様の御心が自分の思いと一致するということが本当に大事なんだなと思われています。そしてイエス様がこの世界や人をどう見ておられるか、そのまなざしをもって、母の信仰の姿勢のように、イエス様の似姿に近づけるよう、神様に造り変え続けていたのだかと思つて

います。

います。

NEWS!!  
NEWS!!

## 各地のニュース!!

エンジェルツリー  
プロジェクト

&lt;エンジェルツリーのはじまり&gt;

1979年、米国・バージニア州リンチバーグという街のショッピングモールのマネージャーが、クリスマスの時期に何か子どもたちを助けられる方法はないか、と救世軍に尋ねました。救世軍は、地域の中で困難な状況にある子どもたちとの関わりをもっていました。そこで子どもたちにクリスマスカードに贈り物の希望を書いてもらい、そのカードをショッピングモール内のクリスマスツリーに飾ったのです。モールに来た人々は自由にカードを選び、書かれた物を買ひ、ツリーの下に置きました。そして、そのプレゼントを救世軍が子どもたちと家族へ届けたのです。

この方法はまたたく間に米国に広がっていきました。現在米国では、救世軍のある地域に住む乳児から18歳までの子どもと60歳以上の困難な状況にある方々へプレゼントを提供しています。願いを書いた最初のカードに天使の絵が描かれていたことから、「エンジェルツリープロジェクト」という名前になりました。

救世軍のケアの元にある子どもたちのためにそれぞれが欲しいクリスマスプレゼントを贈る「エンジェルツリープロジェクト」が2024年12月に無事おこなわれました。今回は東京アメリカンクラブ、協力企業、救世軍アメリカ南部軍国の方々にサポートをいただき、合計194人の子どもたちへプレゼントを贈ることができました。プレゼントを受け取った子どもたちからはたくさん喜びの声が届いております。日本の救世軍では2018年よりエンジェルツリーの取り組みをおこなっており、主に児童養護施設の子どもたちへプレゼントを提供しています。また、今年はエンジェルツリーの一部として東京アメリカンクラブの皆様より、児童養護施設を退寮する方のための特別寄付も募っていただきました。

エンジェルツリーの働きをサポートくださった皆様に心より感謝いたします。今後、エンジェルツリーの支援の輪を更に広げることができるよう、また子どもたちとサポーターのお一人おひとりを繋ぐことのできる尊い働きとして用いられるようお祈りいただければ幸いです。



## 証言

東ヨーロッパ軍国ウクライナ連隊のコンスタンティン・シユヴァブ少佐とイリーナ・シユヴァブ少佐は、士官の奉仕をどのように始め、どのようにに続けているかを証してくださいました。この証言は英国軍国の『サルベージョニスト』二〇二五年一月十一日号に「兵士献身サンデー」に向けて掲載されたものです。

わたしたちは一九九九年に救世軍兵士の誓約をしました。何かの助けを得たかったからではありません。誰かを助けたいと願ったからです。救世軍の働きと制服は、わたしたちに靈感を与えてくれました。そして、今なお靈感を与え続けています。

形式主義的なキリスト教が支配的な地において、救世軍兵士となることは、大きな決断でした。わたしたちは、積極的に福音を伝え、固定観念を大胆に打ち破り、困難をもっとも惹きつけられました。わたしたちは、そのような生き方になりたいと思っていましたし、また、実際にそれを生きようとしたのです。

ウクライナとロシアの戦争の間に、わたしたちはウクライナ連隊のリーダーに任命さ

れました。戦争はすべてを変えました。計画も立てられず、戦略がありませんでした。しかし、ただひとつだけ明確でした。「わたしたちは奉仕を続けなければならない！」ということです。

わたしたちは同僚の士官たちと協力し、小隊会館や士官宅を開放して、避難民を支援するセンターを設置しました。パニックもありましたし、危険な状況でもありましたが、士官のだれひとり働きを辞する者はいませんでした。むしろ反対に、わたしたちは救世軍人としての奉仕を、これまでに以上に大胆に実践するようになったのです！

ウクライナの救世軍士官は全員、非常なストレスにさらされており、それは目に見えて表れています。男性の士官は、徴兵され、従軍しなければならぬ可能性が常にあります。それも、ストレスを大きくしている要因のひとつです。

ここウクライナで、救世軍士官として仕えるよう、皆様から任命を受けています。その役割を理解するために、わたしと妻はすべての士官たちと定期的に会うようにしています。そのためには、どんなに遠くても、ウクライナ各地の小隊を訪ね

なければなりません。また、オンラインでの士官会を毎週おこなっています。士官たちに靈感を与えること、そして、模範を示すことが必要であると感じています。そのためには、まず、わたしたち自身が、救い主イエスの模範に倣わなければなりません。

妻は連隊女性部書記の務めに加えて、キーウのマヤク小隊の唱歌隊の指導もしています。また、キーウ郊外にある分隊の集会の責任ももっています。わたしはあらゆる機会をとらえて小隊を訪問し、説教し、研修会を導いています。

わたしは救世軍の制服を着用できることを誇りに思います。自分主の兵士です、と言えらることは、なんと栄誉でしょう。救世軍兵士の誓約をしたことは、わたしの人生における最良の決断であったと感じています。



# YP (青少年部)・ファミリーニュース

## 杉並小隊 ●献児式



今年も救世軍各所で新成人をお祝いしました。

- 遠軽小隊：菅井 諒 さん
  - 遠軽小隊：大江 琢巳さん
  - 大森小隊：鶴ヶ崎大知さん
  - 江東小隊：佐々木象太さん
  - 清瀬小隊：チャ・イエギョンさん
  - 渋谷小隊：関根 仰 さん
  - 渋谷小隊：天利 友 さん
  - 岡山小隊：武田 瞳 さん
  - 泉尾小隊：沖 永遠 さん
- おめでとうございます！

2024年12月22日(日)クリスマスサンデーに、出陣者の書記長官 西村保大佐補と和江大佐補の司式により、2021年12月に誕生した砂邊希光(のえる)くんの献児式がおこなわれました。ご両親の砂邊風舞樹さん、愛加兵士と共に神様の祝福と恵みを祈りました。



## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

### 音楽部

#### ●バグマイヤー前楽長夫妻を迎えて

ハロルド・バグマイヤー前シカゴ・スタッフ・

バンド楽長と、夫人のプリシラ・バグマイヤーさんが、韓国軍国での音楽キャンプの奉仕を終え、日本軍国に立ち寄られることを受け、急遽、集会が企画されました。

**合唱交流会** 1月24日(金)午後7時、ご夫妻をお迎えし、山室軍平記念ホールにおいて、ジャパン・スタッフ・ソングスターズメンバーを中心に有志が集まりました。今年のテーマソングの合唱用にアレンジされた楽曲を練習。ユーモアを交えた熱心な指導は、参加者の心を一つにしました。他に一曲、バグマイヤー氏のアレンジによる美しいハーモニーの短い英語の歌を、プリシラさんが導きました。賛美は技術ではなく、第一に心で献げられることを教えられました。練習後はお茶の時をもち、ご夫妻のこと、初めての日本でのこと、韓国での音楽キャンプのことなどを伺い、和やかなひと時を過ごしました。(参加者18人)



**ブラスバンド・コンサート** 1月25日(土)午後2時30分より、山室軍平記念ホールにおいて、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)をメインに、楽隊員以外の救世軍人や外部ブラスバンドのメンバーが加わり開催されました。コンサートの冒頭、司令官スティーブ・モーリス大佐は会衆を歓迎し、バグマイヤー氏を紹介。バグマイヤー氏が曲の解説をしながら司会し、石川一由紀少佐が通訳しました。午前中のリハーサルで気持ちが一つにまとまったバンドは、メッセージ前の6曲を、心を込めて演奏しました。そのほとんどはバグマイヤー氏の作曲・編曲によるものでした。軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐は詩編より「心の中から湧き上がる音楽」と題してメッセージをしました。続いて「波はさかまき寄せて」(バグマイヤー氏編曲)と「主があなたを祝福し あなたを守られるように」が演奏され、アンコールでは、スウィング「輝く日を仰ぐとき」とマーチ「スター・レイク」が演奏されました。

コンサート後、出演者はバグマイヤーご夫妻と交流の時をもちました。(聴衆68人、演奏者37人)



4月6日(日)～20日(日)  
 ♪♪ 救世軍音楽週間 ♪♪

NEWS!!  
NEWS!!

## 各地のニュース!!

## 札幌三園

●合同職員クリスマス会  
コロナのために、札幌の三つの保育園の合同職員クリスマス会の開催が

できずにいましたが、久しぶりに2024年12月5日(木)、札幌小隊を会場におこないました。一部は石坂臣司チャプレンの司式でキャンドルサービス、二部は、交流会としてジェスチャーゲーム、三部はお茶



会をしました。御言葉に心を向けながら、楽しい交わりのひと時をもちました。



## 横浜小隊 ●クリスマスコンサート

2024年12月7日(土)、横浜小隊クリスマスコンサートをおこないました。このコンサートは10年以上前からおこなわれていますが、今回は小隊のメンバーの中から、音楽の賜物を用いてコンサートをおこないました。ピアノ：浅野あゆみ兵士、トロンボーン：熊田栄一曹長、電子ピアノ：諸井めぐみ副会計により、クリスマスの賛美と音楽を楽しみました。



地域の皆さんを招いて、子どもから大人まで楽しめるクリスマスコンサートとして、来場者が小楽器を手にし、一緒に演奏をし、また、クリスマスカローを賛美するなど、リラックスした和やかな雰囲気でおこなわれ、笑顔があふれました。小隊士官 鈴木智博大尉は絵本『プレゼント』を用いて、「私たちの救い主として、天の父なる神様は人間へのプレゼントとして、イエス・キリストをこの地上へ送ってくださった。クリスマスは、そのことを感謝し、祝うひと時である」とメッセージしました。コンサート後のティータイムにも、多くの方が残り、交わりを楽しんで帰路に就かれました。初めて小隊にいらした親子、チラシを見て来てくださった方など新来者が多く与えられました。(聴衆70人)

## ●クリスマスイブ・キャンドルライトサービス

12月24日(火)、クリスマスイブ・キャンドルライトサービスをおこないました。クリスマスカローと聖書朗読・メッセージがあり、救い主イエス・キリストを皆でたたえました。クリスマスコンサートの際に案内した方、こども広場(月2回開催)を利用している子どもが保護者と共に出席してくれたことは大きな恵みでした。(出席者19人)

## 仙台小隊 ●市民センター祭りへの参加

2024年10月12日(土)、南光台市民センター祭りに際して、仙台小隊からバザーを出店しました。男子社会奉仕センターからの寄贈品と、女川町にある「NPO法人きらら女川」から、おからかりんとう、わかめの佃煮を仕入れ、販売しました。小隊の良いPRの時となりました。



13日午後には、山岸信寛会計率いる「フォーク・アドベンチャーズ」のステージ演奏がありました。普段は小隊会館で練習をしています。毎年祭りのトリを務め



ており、今回も近所の人が楽しみに集まっておられました。

## ●クリスマスコンサート

12月14日(土)、南光台市民センター主催、ゴスペルグループ「たんぼぼ」のコンサートが、小隊を会場におこなわれ、多くの近隣の方々が集いました。山岸会計が音響を担当しました。社会鍋も立て、来場者の多くからご協力をいただきました。指導者の高菜美香さんはクリスマスチャンで、フランスで救世軍バンドとも共演したことがあるとのことでした。高菜さんは後日、街頭での社会鍋スタンドにも立ち寄ってご協力をくださいました。





## 社会鍋による支援 八幡小隊

### ●障がい者通所施設へ

障がい者通所作業所「アベック」にスタンドミキサーを贈りました。この作業所では、ロールパンやクッキーを作る作業がおこなわれており、毎日のように使用するミキサーの提供は大変喜ばれました。

### ●母子寮へ

今年も八幡東区にある母子寮「わかくさ八幡」の利用者に米などの食料支援をしました。食料品の値上げの中、子どもを抱える母子家庭にとって、この支援は大きな助けになる、と施設長からも感謝されました。後日、母子寮の利用者の方々から感謝の言葉も送られてきました。



アベック作業所でスタッフの方々と



支援したミキサー



母子寮に支援品をお届けする



母子寮から届いた礼状

## 連載

## 各地の小隊から 第12回 杉並小隊

小隊士官 山谷昌子少佐  
吉田慎也中尉

救世軍杉並小隊は、結核療養所であったウイリアム・ブース記念杉並療養所（現・ブース記念病院）の院内集会として始められました。療養所内の集会室で聖別会、救霊会、聖書研究会、兵士会が毎週おこなわれ、療養中の患者や病院に任命された士官の中から曹長、書記、会計が任命され、ガリ版刷りの週報が発行されていました。

1974年に山室軍平生誕100周年記念事業として、杉並区和田1-41-3に杉並小隊が落成し、1985年にはその構内に山室軍平記念救世軍資料館が併設されました。この時代には、ブース記念病院の事務長や婦長に任命された士官が、曹長や会計を務めていましたし、書記、新兵軍曹、歓迎軍曹、会館軍曹など下士官の多くが元患者の方々でした。

1995年に救世軍日本開戦100周年記念事業として、杉並小隊・総合センターと資料館が杉並区和田2-21-39に新築移転し、先日召天されたポール・レイダー大将の司式で献堂式がおこなわれました。なお、旧杉並小隊跡地には、BCP（災害発生時の事業継続計画）の拠点として杉並小隊別館（アネックス）が2019年に設けられました。

杉並小隊が位置する地区は、病院、4つの社会福祉施設、男子社会奉仕センター・バザー



ユースグループ

場、士官学校、士官住宅、引退士官住宅で構成されています。小隊に集う戦友には、そうした病院施設に任命を受けている士官や職員、元職員、引退士官、ボランティアが多くいます。歴代の杉並小隊長（現在の小隊士官に相当）も、チャプレン、バザー場の施設長、士官学校教官といった任命を兼務した場合が多く、霊的な奉仕と社会的な奉仕を統合した「総合的伝道」のひとつの形とすることができるでしょう。

コロナ禍以前の聖日は、日曜学校、聖別会、愛餐会、バンド練習、唱歌隊練習、家庭団例会、ユースグループがおこなわれていました。コロナ禍後に再開することができましたが、その中の家庭団例会は「女性の集い」へ、唱歌隊は「歌のグループ」へと名称や内容を変えて活動しています。さらに「大人会」など新しい集いも始められています。週日は、柏寿会、ピアノ教室のほか、有志の楽器練習への会場貸しなどがおこなわれていますが、New Hope 麻布の働きが移転したことに伴い、2024年10月から、ダンス教室が杉並小隊の2階でおこなわれるようになりました。

小隊にはいま、中高生から30代まで幅広い年齢の青年たちがいて、バンドやユースの活動を通して成長しています。また、幼児も集っています。救世軍の今年の標語「世代から世代へ」、そして、今年の標語「信仰の遺産の上に築く」が、今、まさに杉並小隊の課題であると感じています。結核療養所の時代から続く信仰の遺産の上に、新しく起こる世代の救世軍人が、次の歴史のページを開いていくことを期待し、祈りながら、活動を続けています。



2025年1月 初釜



柏寿会のメニュー

## 〈連載・第31回〉

## 神の呼びかけ ～神の民となるために～

## (12) 戦いへの呼びかけ

(承前) 5、わたしたちは霊的な戦いをする時に、技術や手法が強調される傾向があることに気づき危惧している。この状態に陥ると、聖潔を追い求めることや伝道そのものよりも優先されてしまう。これに抵抗するためには、各教会で絶えず力と調和と霊によって導かれて宣教を教えること以外にはない。

6、わたしたちが受けている報告では、霊的な戦いにおいて幻滅感が増大しているという。それは、期待や予言が現実とならないこと、または言葉や習慣の違いにより疎外されること、あるいは単に成功者の話に不快感を覚えることから生まれる。これらすべてに対抗するためには、イエスが祈りについて説いた教えに立ち戻ることに、特に目立たずに隠れて祈るように教えたことを思い出すべきである。

7、福音を伝えるために出ていくクリスチャンは、最初のうち常に文化の違いなどから闇の力を感じ、聖書の真理や内容を適用させることに気を使う。

8、わたしたちは地域に息づいている霊的なものについては慎重となり、近年発展しているこの分野についての聖書学者たちの研究に注目すべきである。

9、気がかりな状況として耳に入っているのは、言葉の違いがクリスチャンを人々に対立させてしまい、他の宗教の信者たちが、このことを言葉の暴力、あるいは政治的な関与として解釈していることである。わたしたちの説教や戦いについて語る時には、平和やざんげ、和解の言葉が優先されなければならない。

チック・ユイル (Chick Yuill) は、『This Means War (宣戦布告)』(邦訳『バトル オーダース』2002年)の中で、この問題についての見解を次のように述べています。

「霊的な戦いに関するこの問題について書かれたものの中には、彼らに関心をもつ悪魔学などに基づいて細かく考え、聖書自体からはかけ離れたところで捉えているのではないかと思えるものがある。また、自分の行動を悪魔のせいにして、個人的な責任を放棄する人もいるのも事実である。しかし、この件は誇張されすぎていると思われる。悪魔的なものに正しく気づいた時には、それは倫理的に前向きな影響を及ぼすのではないか。それは、悪が「私たちの本性の単なる一面」であると考えられることを不可能にし、誘惑の巧妙さと執拗さに私たちを警戒させる。そして、私たちがこのような強力な敵と対峙している以上、神の恵みに完全に頼らなければ倫理的な生き方を実現することはできないということを、他の何よりもはっきりと私たちに思い起こさせるのである。」

委員会に参加していたアフリカ出身のステュアート・マンゲート (Stuart Mungate) が、妖術師の活動について語ったところによると、西洋的な霊の考え方は、時に理解しにくいのだと言います。チック・ユイルは、さらに

指摘しています。「何百年もキリスト教の教えや伝統になじんできた国や都市は、異教に根付く習慣や考え方をしてきた社会とは全く異なる性質をもっている。宣教とは、霊的な背景を理解して、それに合わせたメッセージを伝えることが最も効果的である。」

ローザンヌ宣言を振り返り、チック・ユイルは記しました。「兵士たちの間に不一致が起こることほど、軍隊の力を弱めるものはない。あつという間に士気が失せ、軍隊は敵にこてんぱんにされてしまう。イエス・キリストの軍隊には決して起こしてはならない。クリスチャン同士が霊的な戦いのことで分裂するなど、それこそ皮肉なことである。」

霊的戦いの概念とそれを理解をすることについての懸念は、自らの教義を失ったりおろそかにしたりする宣教のグループが広がっていくとともに増長していきます。この懸念は救世軍人の中で共有され、1997年に南アフリカで青年たちが世界各地の軍国から集まった時にも、その説明が求められました。

委員会ではローザンヌ宣言は必要なものであったと認め、受け入れました。ロジャー・グリーン博士 (Dr. Roger Green) は指摘します。「二元論に陥ることを認めるべきではない。説教や教えで、あるいは悪に対する善としてであっても、そのような傾向は認めてはいけません。どちらが勝つかは歴史の結果で知るよりほかない。この件についての最も深刻な誤りは、サタンは神のつくったものであるとし、サタンが何でも知っていて、どこにでも存在し、『全能』である (マタイ 12:29) と考えるクリスチャンである。」さらに、彼は言います。「しかし、聖書の御言葉と経験から、結末ははっきりしてもなお、悪は善に逆らっている。教会は個人的なものであれ社会的なものであれ罪との戦いに参加している。それは制度や国を縛っている不正義、偏見、憎悪という罪との戦いである。そのような霊的戦いでは、神は教会に聖霊の賜物を与えて備えさせてくださるのだ。」

委員会では、クリスチャンはキリストの贖いの業による究極的、絶対的な勝利の確信に立ち、聖霊の力によって戦うことを強調します。ヨハネによる福音書 16章 33節で、イエスが弟子たちに語りました。「勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」主は勝利を疑っていません。わたしたちも同様でしょう。

このことをしっかり心に留め、また様々な文化を代表するものとして、委員会は以下の点を強調します。「悪魔的なものに対して極端な態度は取りません。拒絶もしなければ執着もしません。わたしたちは、キリストの体は戦いのために備えられていて、聖霊の賜物を通して奉仕すると確信しています。これらによって、わたしたちは強められ力を与えられます。」

1880年代、カサリン・ブースは自己満足の危険に気づいていました。「今日のキリスト教がほとんど抵抗に遭わないことは良くない印です。何かが間違っていたとしても、わからなくなります。」 (続く)

## 救世軍見解表明

### 社会道德に対する救世軍の立場

#### 第15回「ポルノグラフィ」(2)

##### 見解表明の背景と状況

(承前) 生活の他の分野のことを忘れるほどに、取り憑かれたようにポルノグラフィを見る、ポルノグラフィのことやセックスのことばかり読んだり、考えたりする、このようなポルノグラフィの用い方は、習慣性の行為、依存症に似ています。インターネットのポルノグラフィは、そのような行為におとし入れられるものであると言われています。

世界的なポルノグラフィ産業の規模の大きさを測るのは困難です。しかし、その産業の成績を示す財務諸表が誇張であるとしても、独立した研究者たちは、数百億ドルを生み出しているだろうと言います。伝えられるところによれば、2005年には、ポルノグラフィがテレビの有料視聴制の69%の割合を占めたと言われます。

##### 救世軍の立場の土台となるもの

聖書には、性的親密さは、神によって定められ、祝福され、神によって良しとされたとあります(創世2:23, 24)。救世軍は、聖書の教えに基づいた性的関係が神聖なものであるとします(コリント一 6:13b, 18-20; マタイ5:27, 28)。クリスチャンとして私たちは傷つきやすい人々を心にかけ、人間の尊厳を認め、家族の大切さを保ちます。

ポルノグラフィは人間関係に対する神の目的を攻撃し、ゆがめます

ポルノグラフィは愛し合い、関わり合う関係を見捨て、肉欲に重きをおき、性の大切さを奪います。親しく交わる代わりに、ポルノグラフィは幻想に基づいた欲望だけを強調します。ポルノグラフィは、カップルの正しい関係の中では達成できない性的関係への期待を高めるので、極めて重大な傷を与えます。

ポルノグラフィは、単に個人の道徳の問題なのではなく、不道徳な業界の慣行の問題なのです

ポルノグラフィ産業は拡大しており、その収入はポルノグラフィを世界中にばらまくことによって生み出されます。救世軍は、経済的利益のために個人の価値を落とすような、商業的利用から、すべての人は守られる権利があると信じます。そしてポルノグラフィ産業のように、男性の性も女性の性も商品化することに反対します。

ポルノグラフィ産業と人身取引の問題の間に繋がりがあつことを示す証拠もあります。ポルノグラフィの材料のための人身取引のケースについての証拠書類もあるのです。ポルノグラフィ消費と買春行為の相関関係は、商

業的な性行為の求めに応え、性的人身売買の問題と繋がります。救世軍は、人身売買は自由と尊厳の原則に反するものであるとし、それに対して真剣に戦うのです。

ポルノグラフィは性道徳をゆがめます

極端に露骨なポルノ映画や小説にたやすく近づくと、性的関係において何が正しくて、何が正しくないかがわからなくなります。同意の上でさえあるなら、いかなる性的関係も許されるという考えを助長します。救世軍はこのような考えに賛同しません。

##### 実際的な対応

1. 救世軍は、(ポートフォリオ投資を含めて) マーケティングやセールスにおいて、ポルノ素材を手に入れたり、販売促進をする営利企業を承知の上でサポートすることはありません。そのようなことに関わり合っていることがわかれば、救世軍はポルノグラフィ産業に関連する企業から投資を引き上げるよう勧めます。
2. 救世軍は、ポルノ素材の製作や、それにつながることを取り締まる公的立法を支持します。
3. 救世軍は、簡単にアクセスできる公共スペースでポルノグラフィを広く受け入れることに反対する、大衆の意識を高めます。
4. 救世軍は、ポルノグラフィから解放されたいと苦闘する人々と共に働き、そのような助力には専門のカウンセリングやサポートが含まれることを理解しています。
5. 救世軍は、若者への性教育を支援し、聖書の示す人間性の麗しさを強調します。
6. 救世軍は、人々、特に若い人たちが、性的描写のどれが益となり、どれが害になるか、その違いをより深く理解する機会をもつことができるよう、メディアを用いるよう努めます。
7. 救世軍は、いかなる形においても、性的搾取に反対します。
8. 救世軍は関連するプログラムやオフィスサイトで、ポルノグラフィにアクセスすることを禁ずる、ポリシーと手順を保ち続けます。

(2014年11月大将によって承認)

#### 第16回「安息日の遵守」(1)

##### 安息日遵守についての見解表明

救世軍は、私たちの神、創造主が、私たちの益のために生活のリズムを造られた、という聖書の教えを大切にし、宣言します。このことはバランスのとれた生活の仕方に関する、天地創造の物語(創世2:2, 3)、十戒の4番目の掟(出エジプト20:8-11、申命5:12-15)、イエスの教えの中に見ることができます。それゆえに、安息日を週のどの日に守るかに関わりなく、安息日の遵守の原則を守ることは、休息し、感謝を献げ、礼拝する機会を提供します。

(続く)



### 宇賀神季代子大佐補 天に召さる

宇賀神季代子大佐補は、2024年12月16日、入院先の救世軍ブース病院より、老衰のため召天されました。92歳でした。

宇賀神季代子大佐補は、1954年9月、高崎小隊より士官学校『救霊者』の学年に入校されました。1955年6月、少尉に任ぜられ機恵子寮副官として遣わされましたが、病気休養され、翌年1956年10月に清水小隊付(臨時)として任命されました。浜松小隊長の任命後、1960年7月宇賀神弘大尉と結婚。夫君と共に甲府小隊、西成小隊、泉尾小隊、小樽小隊、神田小隊、士官学校、渋谷小隊、東京連隊本部で奉仕されました。その後、東京連隊家庭団書記、引退士官部長、(兼)軍国統計係、(兼)戦場部付、事業企画開発部付、広報及び事業企画開発部付、事業企画部付、軍国婦人部書記の任を担われました。1996年3月には士官永年勤続章40年章を受けられ、2001年3月31日に引退されました。2017年に弘大佐補を天に送った後、ご家族の介護のもと、お一人でオリーブハウスに住んでおられましたが、今年2月にブース記念病院に入院されました。

宇賀神季代子大佐補は、長年にわたり夫弘大佐補を支え、明るい笑顔をもって周りの方々に励まし、良い感化を与えられ、尊い士官の生涯を全うされました。

12月21日、告別式が勝地次郎中將の司式で、救世軍杉並小隊・総合センターで執りおこなわれました。御遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。



### ポール・レイダー大將 天に召さる

ポール・レイダー大將は2025年1月18日、天に召されました。

ポール・アレクサンダー・レイダーは、1934年に米国ニューヨーク州で生まれ、救世軍人の家庭で育ちました。長じてアズベリー大学で学部課程を修了し、その後アズベリー神学校と南部バプテスト神学校で学び、学士号、神学士号、神学修士号を取得しました。ケイ・フラーと結婚後、1960年9月、ニューヨークの救世軍士官学校に入校し、『キリストの兵士』の学年候補生となりました。1961年には候補生中尉に任命され、1962年6月に救世軍士官として任官されました。

レイダー中尉は任官後、韓国の救世軍士官学校の教官に任命されました。韓国語を学び、説教や授業ができるほど流暢に話せるようになりました。教育、伝道、管理運営などさまざまな職務を担当し、1967年7月に副校長に任命されました。1972年3月、南カリフォルニア連隊本部の海外奉仕部に任命されました。少佐に昇任後、フラー神学校で学び、宣教学博士号を取得しました。

1973年8月、韓国に戻り、士官学校長、教育部長、書記長官を歴任。1977年、大佐補に昇進しました。1984年2月、韓国での22年間の奉仕を終え、米国に戻りニューヨークの士官学校校長を務めました。この時に、アズベリー大学から名誉博士号を授与されました。

1989年1月、大佐となり、米国東部軍国の書記長官、1989年10月に中將となり、米国西部軍国の司令官に任じられました。1994年、前例のない満場一致で、アメリカ生まれとして初めて大將に選出され、1999年までその任を担いました。その間、万国女性部会長を務めたケイ・レイダー中將と共に75カ国以上を訪問し、世界中の救世軍人に励ましと靈感と成長をもたらしました。引退後、2000年～2006年にはアズベリー大学の第15代学長を務めました。

ポール・レイダー大將は、神を畏れ、人々への奉仕、何よりもキリストへの奉仕に生涯を献げました。生涯を通じて学び続け、教育、祈りの力、聖潔に対する深い献身を示しました。妻に対しては献身的な夫であり、家庭では愛情深い父親、祖父、曾祖父として、愛、誠実さ、謙虚さ、信念を遺しました。

告別式は2025年2月1日午後1時より、アズベリー大学ヒュー講堂にておこなわれ、ライブ配信されました。ご遺族の皆様の上に神の平安と慰めがありますようお祈りいたします。



葬儀の録画はQRコードから視聴できます↑  
[https://www.youtube.com/live/IUVH\\_LIBNDC](https://www.youtube.com/live/IUVH_LIBNDC)

## 3月16日(日) 士官候補生サンデー

### 救世軍公報

転任(カッコ内は継続任命)

補八幡小隊士官、(兼)西日本連隊【中国九州地区】連隊長補佐(週四日)

樋口和光少佐

補帯広小隊士官

(兼)北海道連隊女性部書記補佐の任を解く

補帯広小隊士官

眞鍋和枝少佐

補岡山小隊士官

(兼)災害対策室付の任を解く

補岡山小隊士官

藤井健次大佐補

補(兼)山室軍平記念資料館長

(伝道事業部長、兼)山室軍平記念救世軍資料館運営委員長

石川和男少佐

補士官学校教官、(兼)医療部

チャブレン

山谷昌子少佐

補コミュニケーション部付

(週三日)

瀬戸口久美子少佐

(兼)新光館館長の任を解く(社会福祉部付、(兼)災害対策室付)

岡本貴仁少佐

補清瀬小隊士官

高島恵子少佐

補清瀬小隊士官

高島欣男少佐

補広島小隊士官、(兼)呉小隊士官、(兼)呉地区社会福祉施設

チャブレン

齋藤丈夫大尉

補副財務管理部長(兼)財産部付

勝篁隆大尉

補(兼)コミュニケーション部

ファンドレイジング担当、(軍国青少年部長、(兼)東京東海道連隊本部付)

解く(佐野保育園付、(兼)佐野小隊士官)

補上野小隊士官

眞鍋嗣道中尉

補書記長官部付

吉田慎也中尉

補書記長官部付

成演宇軍国特務曹長

補(連隊管轄の小隊・分隊は、

函館小隊、遠軽小隊、熊谷小隊、

浪江小隊、若松小隊、長野分隊、

神田小隊、大森小隊、上野小隊、

川口小隊、西成小隊、高知小隊、京都小隊)

以上

二〇二五年三月二十七日付

司令官

スティーブン・モリス

引退

徳永由美少佐(鶴橋小隊出身は、二〇二五年三月二十六日付をもって現役を引退。

岡山小隊士官の任を解く(三月二十六日付)

三十五年永年勤続章

(三月二十五日付) 山谷真少佐

三十年永年勤続章

(三月十九日付) 西村保大佐補

司令官

スティーブン・モリス

召天

宇賀神季代子大佐補(高崎小隊出身は、二〇二四年十二月十六日、召天。

司令官

スティーブン・モリス

創立者 ウィリアム・ブライス 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

# NEWS!! NEWS!!

## 各地のニュース!!

### 岡山小隊、高松分隊

#### ●クリスマスサンデー

2024年12月22日

(日)、聖別会ではクリスマスカロルをたくさん歌い、御言葉からクリスマスの恵みを新たにしました。祝会では昼食を共にし、小隊関係者の参加するアロハノアフラダンスチームのボランティアパフォーマンスがありました。恵みの一日となりました。

#### ●分隊旗の献納

1月11日(土)、高松分隊集会で、分隊旗を献納しました。会館は使用できなくなりましたが、信仰をもって生きる救世軍人がおられることを感謝し、新しい形で戦



いを続ける証しです。

#### ●岡山小隊 兵士入隊式

2月2日(日)、兵士献身サンデー聖別会の席上、吉田宏一さんの兵士入隊式があり、主の御名をたたえる時でした。



**3月11日 東日本大震災から14年**

時間の経過とともに、復興や生活の再建状況は変わってきていますが、あの震災で大きな影響を受けた方々を覚え、お祈りしましょう。

**3月7日(金) 世界祈禱日**

今年は、クック諸島の世界祈禱日委員会が作成した式文に基づき、「わたしたちはおそろしいほどに、すばらしく造られています」のテーマで祈りを献げます。

**酒害強調週間**

3月30日(日)～4月6日(日)

お酒は人生に深刻な悪影響を与えます。周りの人にも酒害について伝えましょう。日本におけるアルコール消費量は、健康志向の高まりや若者のアルコール離れにより、近年減少傾向にあります。一方で飲酒運転による悲惨な事故もやまず、アルコール使用障害や依存症は依然として大きな問題です。救世軍は創立以来、アルコールなしの生き方を勧め、禁酒禁煙の主義を守っています。救世軍国際見解表明「アルコールと社会」はホームページで閲覧できます。

主催：軍国青少年部

ティーンズ キャンプ

**Teens Camp 2025**

テーマ **トレジャーハンター!**

～キミの宝を探そう～

進級、進学前にみんな集まれ!

新しい一年、神様と一緒にスタートしよう!

日程：4月1日(火)～3日(木)

会場：奥多摩バイブルシャレー

対象：12歳(小6)～19歳

特別講師：古波津 真琴 牧師

※詳しくは青少年部からの案内をご覧ください

印刷所	株式会社ヒートプレス
発行所	救世軍本営
電話	東京(03)三三七〇八八一
〒101-0051	東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番
編集人	山谷 真
印刷人	代表者 スティーブン・モリス
発行兼 救世軍	
発行日	毎月一日発行
▼福喜版	毎月十五日発行
▼定価	奇数月十五日発行
福喜版・一部	四〇〇円
広報版・一部	一〇〇円
クリスマス特集号	十二月一日号
振替	一部 一〇〇円
	一部 一〇四〇円

(取扱支部)